

やさしく かしく 元気よく



松原小だより



〒365-0043 鴻巣市原馬室2425番地

TEL: 048-542-8450 <https://matubara-e-konosu.edumap.jp/>

松小 HP
毎日更新中!

児童数 431名(令和8年1月8日現在)

1月号

午(馬)年の松原小 若駒が駆ける1年に

校長 寺島 麗王馬

新年あけましておめでとうございます。冬晴れが続いた年末年始ではありましたが、2日の降雪で、松原小の校庭も一時白く染まり、「雪正月」の風情も味わうことのできた新年のスタートでした。

2026年(令和8年)は午年。馬(午)は後ろを振り返らず、常に前進する動物であることから、前向きなエネルギーに満ちており、成功・発展・躍動の象徴として、日本人に長く親しまれてきました。



また、神社に奉納する「絵馬(馬は神様の使いであり、願いを馬に乗せて届ける)」や、将棋の駒に描かれる「左馬(ひだりうま。山形県天童市発祥。「うま」を逆さから読むと「まう」となり吉祥の象徴と言われる。また馬が人を乗せて集まってくるイメージから、開運・招福・商売繁盛の意をもつ)」といった縁起物とも結びつきの深い干支でもあります。

ご存じのとおり、本校、松原小学校の所在地は「原馬室」であり、馬とゆかりの深い地域でもあります。原馬室の「原」は、元来、馬を飼う牧場に適した平坦な土地(=原)を指し、古代から中世にかけて、この地域に「牧」があったとの記述が歴史書に見られます。また、室町時代~戦国時代には、この地域が「馬室郷」とよばれ、戦国武士から馬を盗まれないよう、丘の中腹に穴を掘り、室を作って馬を隠したとの記録も残っています。また、原馬室と滝馬室に1つずつある観音堂(仏堂)には、ともに馬頭観音が祀られており、農作業や荷物の運搬等を助けてくれる馬に対して、厚い信仰があったことがうかがえます。



原馬室のお堂



滝馬室のお堂

そんな馬とゆかりの深い地域で育っている松原っ子ですが、校庭を所狭しと駆けまわる姿は、まさに若駒が野原を駆けまわる姿に重なります。心身ともに成長盛りの松原っ子、新しい年を迎え、それぞれの思いを胸に本日、登校してきたことでしょう。午年は、努力や挑戦が実を結びやすい年と言えます。新しいことへのチャレンジや、日々のこつこつとした積み重ねなど、一歩踏み出すには最適のタイミングであり、始業式でも子どもたち一人ひとりに向けてメッセージを送りました。

一方で、子どもたちに言うだけでなく、私自身も、そして松原小の教職員も、新しい挑戦を続けていきたいと考えています。大人自身の姿勢や行動は、必ず子どもたちに伝わっていきます。私は立場上、子どもたちに言葉を投げかける機会がどうしても多いのですが、子どもは大人の言葉より、その人が「行動で示しているか」、「言行が一致しているか」、をよく見ているものです。そのことを前向きなプレッシャーと捉えて、松原小の教職員一同、『子どもが子どもらしく育つ松原小』づくりに向けて、今年も全力で取り組んでまいります。

2026年(令和8年)が、松原っ子、保護者の皆様、そして地域の皆様にとって、「何事もうまくいく」年になりますよう心から願っております。本年も松原小学校の教育活動へのご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

◆2学期末に保護者あてメールにてお知らせいたしましたが、来年度(令和8年度)から、2学期の始業日が、9月1日(現在は8月29日)となります。予めご承知おきいただきますようお願いいたします。